

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

課題番号	19H05663	研究期間	令和元(2019)年度～ 令和5(2023)年度
研究課題名	信頼性向上を持続するeテスト ング・プラットフォームの開発	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	植野 真臣 (電気通信大学・大学院情報工 学研究科・教授)

【令和6(2024)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、eテストング及びパフォーマンステストの運用上の問題点である、経年的な測定誤差の増加やパフォーマンステストにおける評価者特性における測定誤差を抑制するアルゴリズムや手法を考案し、これらの安定的な運用が可能になるプラットフォームを開発することを目標としている。その実現に向け、継続的に高精度のeテストングを行うための技術・運用方法を提供すること、また、パフォーマンステスト測定誤差が減少していくことを、実際の大規模テストに適用した実証実験を行い、その有用性を確認することを目指している。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>本研究の目的は非常に明確であり、また、その目的を達成するための方法も大学入試センターとの実証実験によってその実用化が図られ、その成果は多くの学術雑誌や学会にて発表され、かつ公開シンポジウムやメディア等を介して広く周知されていることなど評価できる。また、医療系大学の共用試験もeテストングの実用化のために継続的に行われており、その結果を基にeテストングの運用ガイドラインが策定され、それがウェブサイトで公開されたことの意義は非常に大きい。策定された運用ガイドラインに従ったeテストングが、大学新生の基礎学力調査、大学入試の総合型選抜や学校推薦型のCBTにおいても使用可能であることが確認され、本研究成果の有用性は高いと考えられる。ガイドラインに沿ったeテストングが様々な分野で実施されることを期待する。</p>		